

苦闘の蓄積が真価を発揮するとき

12・15 国鉄労働者集会のまとめ・中野委員長



「59・2ダイ改」阻止、「3・25二期阻止」三里塚総決起で、反動中曽根内閣を實力で打倒しよう。

—— 集会の「まとめ」に立つ中野委員長 ——

日刊 動労千葉

83. 12. 21

No. 1523

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二十八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二二（七）七二〇七

「12・15 国鉄労働者集会」は、動労千葉三八〇名を先頭に、県教育会館を満杯にする六一〇名の結集によって、「国鉄・三里塚を基軸に中曽根と対決して闘う」路線を確認し、圧倒的成功をかちとりました。結集した全国の闘う国鉄の仲間、布施書記長よりの基調報告（『動労千葉新聞』に要旨紹介）を圧倒的に確認し、勝利への前進を誓いました。本号では、集会の最後に中野委員長が行った「まとめ」を報告します。

労働者の敗北を乞い願う 「労働組合」とは一体何か

本日の集会には、多くの全国の闘う国鉄労働者が参加していることを報告しておきます。動労千葉が全国の仲間とともに、今日の重大な情勢を切り開いていく立場で発言をしたいと思えます。

国労は十二月十四日、昇給協定で妥結しました。

すると、直ちに動労「本部」革マルは「国労大敗北」どうするのかという情報を出しました。さらに「闘う動労千葉よどうしたらいいのか」といつている。「毒まんじゅうを食うのか食わないのか」とかね。

こうした動労「本部」革マルのやり方を見てみると、実に恐ろしいことだと思えます。数年前までは総評の中でも最左翼だと自負していた動労は、今では労働者の苦難を喜ぶ集団になっています。自らの大裏切りをタナに上げて、国労の闘いを「敗北」ときめつけることの誤りと悪質卑劣な「本部」革マルの本質が象徴的に表われています。

労働者や労働組合が、いろいろやり方に問題があるにしても、労働者側の敗北を乞い願う集団とは一体何なのでしょいか。われわれはここまで行ってしまった動労「本部」革マルの実態についてはっきりと見抜かねばなりません。

労働運動の根本原則を問うた 昇給協定改悪阻止の闘い

——この一カ月間の闘いの過程が大事——

今回の昇給協定は、当局提案を拒否して闘ってききました。そもそも昇給協定改悪の狙いは、賃金を通して労働者間に混乱を起こし、分断し力を弱め、思うままに支配せんとする攻撃だったわけです。それを一方の組合がのんでしまった。しかし、動労千葉と国労が拒否したことを通して、この問題で北海道から九州まで大論争になった。

昇給協定改悪をめぐるこの一ヶ月間の闘いと論争は、労働組合とは一体何かをめぐる根本的な原則問題を鮮明につき出した重要なものです。動労「本部」革マルは、はつきりと労働者の立場、組合の原点をなげすめて「第二労務課」の立場に移行したことを内外に宣言したということです。

激動の時代を確信もつてつき進もう

——すべては職場の力関係が決定する——

二つ目は、協約・協定とは何かということですが。平和な時代は一定の有効性を発揮するけど、今日の帝国主義の危機の時代にはイチジクの葉にすぎません。敵がその気になれば、いつでもはずしてやってきます。

昨年の現協約、「57・11」そして今回の昇給協定を見れば、「協定など飾りとしてあるだけ」ということがわかります。すべてのものは、職場の力関係が決定するんです。

昇給時に「3項8号」、「4項」を誰にするかは、現場長の上申にもとづいて人事課がやるんです。職場の攻防がこれを許すかどうかを決めるんです。それを許さぬ闘いが重要なんです。

動労「本部」革マルを全国全職場 から一掃しよう！

裏切り者「土屋一派」を解体せよ

今回の昇給交渉をめぐって、動労「本部」革マルの態度に怒りをこめて、なんとしても国鉄労働運動から一掃せねばなりません。

彼ら動労「本部」革マル連中は、「自分達には力がなくて闘えない。当局によりすがって生きるのびるんだ」と正直に本音を白状すればいいんです。それをおしくし、居直って、「国労や動労千葉は挑発者だ。闘うな」と襲いかかる。

ここがちがうんです。彼らは並みの右翼・反動ということにとどまらない。かつて、ファシスト「ナチス」がドイツ労働者階級を熱烈な侵略戦争遂（裏につづく）

行者に変質させていったと同じ役割を果たしている。革マルは、動労全体を国労が敗北して喜ぶ集団にしようとしているんです。この恐るべき姿を見なければなりません。動労「本部」革マルの恐ろしさを確認し、労働者階級の名に於て打倒しなければなりません。

三里塚―国鉄で反撃しよう

本日の集会で確認すべきことは、今日、様々な反動攻勢が世界的規模の危機に規定されてかけられてきています。危機を戦争でのりきろうとする中曽根が、労働者に攻撃をかけてきています。中曽根は、軍事大国化・改憲にむけて国鉄と三里塚をターゲットにして襲いかかってきています。

戦後の階級闘争を支えてきた最強の砦＝国鉄労働運動と三里塚農民の闘いをつぶすことで、労働者・人民に総屈服と総転向を強要し、その過程を通して、自ら積極的に体制に迎合し、侵略戦争を支えていくような国民をつくろうとしているのです。これに迎合しているものが全民労協であり、国鉄の中では動労「本部」革マルであり、三里塚では一坪土地売りに走っている「脱落派」の部分だということです。

ではわれわれの闘いはどうなるのか。総ぐるみの闘いにならざるをえません。だからわれわれは、今年の大会で「三里塚・国

鉄を基軸に中曽根と対決しよう」と提起したので。今かけられてきている攻撃総体と、どう対決するのかの視点をぬきに一步も前進しないという認識をしたからです。何よりも、動労「本部」革マルを一掃しなければなりません。

動労「本部」革マル・当局連合にクサビを打ちこみ、当局を裸にしなければなりません。当局は自信がないから動労「本部」革マルを引き込んでいます。

ここをまず攻めようではありませんか。

動労「本部」革マルの根底を揺さぶる闘いを行うことが、「59・2」から始まる当局が決意を固めた攻撃を打ち破る道です。

「59・2」を基点とした闘いのカギはそこにあります。

中曽根と対決する闘いに全力をあげよう

われわれは何よりも、中曽根と対決する闘いを全力をあげて推進しなければなりません。

その環は三里塚にあります。

今日、三里塚に対して様々な攻撃がかけられています。脱落派を使って二期をやるうとしています。これを阻止する闘いは、脱落派を一掃することです。3・25を圧倒的に成功させねばなりません。

動労千葉は五割動員で行こう。

職場生産点の苦闘の蓄積が、いよいよ真価を発揮する時が来ました。

動労千葉が、この闘いをばく進し、全力で決起することを決意してまとめとします。